

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターすまいるきっず		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個室が確保でき、一人ひとりに合わせた個別対応とグループ活動での対応を行っている。	詳細なアセスメントを行い、状態や発達段階、特性を考慮して職員間で検討し支援を行うようにしている。	ペア担当で、ペア間で話し合った後、全体共有を行う等何度も検討する機会を持つことで、多様な意見からより一人ひとりに合わせた支援へ繋げていく。
2	職員の専門性と質の向上に向けて、定期的に研修を行っている。	職員研修を設定することや、外部研修へ参加ができるように調整をしている。	ケース検討などをこまめに行い、経験の長短に関係なく専門性を持ち、支援ができるようにしていく。
3	親子療育を行い、ご家族との情報共有を行っている。	実際に見ていただくことやメール、連絡ノート、送迎時の報告で事業所での様子と、家庭での様子の詳細を情報共有し、取り組みの目的、様子等関わり方について伝えている。	親子療育時に適宜面談を行い、話を聞く時間を作っていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信の弱さがある。	必要な情報を個別で伝えているが、情報の発信が遅れ電話連絡などでの対応が必要になっている。	SNSの活用など情報の発信方法を検討していく。早めに情報を開示できるようにする。
2	構造化の療育室が少ない。	広いスペースで感覚統合遊びを楽しんでいただきたい反面、構造化のスペースが制限されてしまっている。	広いスペースについても構造化を行い、過ごしやすい環境を整えていく。